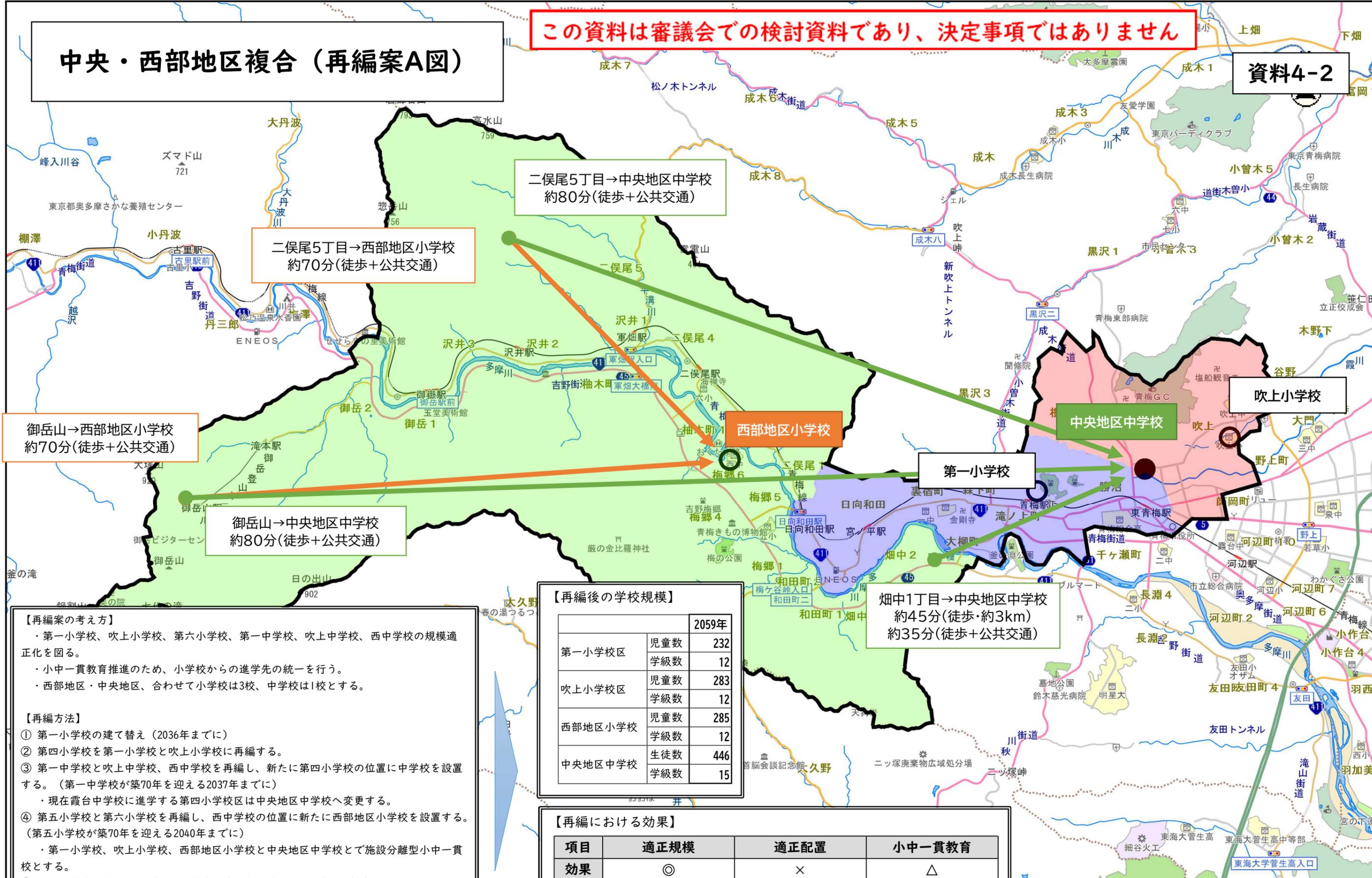


中央・西部地区複合（再編案A図）

この資料は審議会での検討資料であり、決定事項ではありません

資料4-2



二俣尾5丁目→西部地区小学校
約70分(徒歩+公共交通)

二俣尾5丁目→中央地区中学校
約80分(徒歩+公共交通)

御岳山→西部地区小学校
約70分(徒歩+公共交通)

御岳山→中央地区中学校
約80分(徒歩+公共交通)

西部地区小学校

中央地区中学校

第一小学校

吹上小学校

畑中1丁目→中央地区中学校
約45分(徒歩・約3km)
約35分(徒歩+公共交通)

【再編案の考え方】
 ・第一小学校、吹上小学校、第六小学校、第一中学校、吹上中学校、西中学校の規模適正化を図る。
 ・小中一貫教育推進のため、小学校からの進学先の統一を行う。
 ・西部地区・中央地区、合わせて小学校は3校、中学校は1校とする。

【再編方法】
 ① 第一小学校の建て替え（2036年までに）
 ② 第四小学校を第一小学校と吹上小学校に再編する。
 ③ 第一中学校と吹上中学校、西中学校を再編し、新たに第四小学校の位置に中学校を設置する。（第一中学校が築70年を迎える2037年までに）
 ・現在霞台中学校に進学する第四小学校区は中央地区中学校へ変更する。
 ④ 第五小学校と第六小学校を再編し、西中学校の位置に新たに西部地区小学校を設置する。（第五小学校が築70年を迎える2040年までに）
 ・第一小学校、吹上小学校、西部地区小学校と中央地区中学校とて施設分離型小中一貫校とする。
 ⑤ 吹上小学校の建て替え（吹上小学校が築70年を迎える2054年までに）

【再編後の学校規模】

		2059年
第一小学校区	児童数	232
	学級数	12
吹上小学校区	児童数	283
	学級数	12
西部地区小学校	児童数	285
	学級数	12
中央地区中学校	生徒数	446
	学級数	15

【再編における効果】

項目	適正規模	適正配置	小中一貫教育
効果	◎	×	△
内容	2059年まで望ましい規模を維持できる	御岳山等、一部地域にて通学時間が長時間となる。	施設分離型小中一貫校となる。

※色付きゾーンは小学校区を、黒枠は中学校区を表す。